

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652035

研究課題名（和文）社会参加としての在日朝鮮人文学—磯貝治良とその文学サークルの活動を通して

研究課題名（英文）Zainichi Literature as Commitment: Through the literary works of Isogai Jiro and the activities of his literary circle

研究代表者

浮葉 正親 (UKIBA MASACHIKA)

名古屋大学・留学生センター・准教授

研究者番号：40252291

研究成果の概要（和文）：磯貝治良の初期作品 33 篇と在日朝鮮人作家を読む会の同人誌『架橋』のバックナンバー（創刊号～第 26 号まで）を電子化し、ホームページ「ジローの文学マダン」を作成してインターネット上に公開した（<http://www.isojiro-yomukai.com>）。また、磯貝の発表作品目録（1957 年～2012 年 2 月）、在日朝鮮人作家を読む会の活動記録（1977 年～2012 年 3 月）、『架橋』総目次（創刊号～第 31 号）を収録した報告書『社会参加としての在日朝鮮人文学—磯貝治良とその文学サークルの活動を通して』（全 100 頁）を刊行した。その報告書には、磯貝の初期作品 33 篇を収録した CD「磯貝治良作品集 1」を添付した。

研究成果の概要（英文）：The result of this project is two of following. First, we made website titled “Jiro no Bungaku Madang” (<http://www.isojiro-yomukai.com>). By making this site, a lot of people came to be able to read 33 early works of Isogai Jiro and 26 back numbers of *Kakyo* (No.1～No.26), coterie magazine of Zainichi chosen-jin sakka wo yomu kai. Second, we published the report of this project. The title is “Zainichi Literature as Commitment: Through the Literary works of Isogai Jiro and the activities of his Literary circle”(100 pages). In this report, writing list of Isogai (1957～Feb. 2012), activity log of Zainichi chosen-jin sakka wo yomu kai, and total contents of *Kakyo*(No.1～No.31) are involved and also is added CD, titled “Work collection of Isogai Jiro vol.1”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	0	700,000
2010年度	900,000	0	900,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	270,000	2,770,000

研究分野：文化人類学・民俗学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：文学論、各国文学、在日朝鮮人、在日朝鮮人文学、文学サークル、磯貝治良、戦後文学、社会参加

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者である浮葉正親は、2004 年 10 月、愛知県在住の作家・磯貝治良が主宰する在日朝鮮人作家を読む会（以下、「読む会」

と略す）に加入した。月例会に参加するとともに、磯貝治良の講演会や読む会の設立 30 周年記念シンポジウムを名古屋大学で開催するなど、同会の活動に積極的に関わってき

た。

磯貝との親交が深まるにつれ、彼が学生時代から膨大な量の小説や評論を発表していることが分かった。しかも、それらのほとんどが東海地方を拠点とする同人雑誌に発表されているため、今日では入手が困難で、読むことが難しい状態にある。

幸いなことに、磯貝は学生時代から今日まで3冊の大学ノートに執筆記録（講演、インタビュー等も含む）を残していた。磯貝の自宅に所蔵されている同人雑誌をコピーし、文字起こしをしていけば、彼の初期（1950年代末から「読む会」を設立する1977年まで）の文学活動の詳細とその後の活動を見通す全体像を把握できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、作家・磯貝治良（75）の単行本未収録の作品と彼が主宰する文学サークルの「在日朝鮮人作家を読む会」の30年以上にわたる活動を可能な限り記録し、それらを電子化して保存・公開することを目的とする。

また、学史的には、磯貝の50年以上にわたる執筆活動の記録を明らかにすることで、これまで漠然と指摘されてきた、日本の戦後文学と在日朝鮮人文学との接点を具体的に浮かび上がらせことも、この分野の研究の発展に寄与することになると考えた。

3. 研究の方法

3名の研究補助員を雇用し、文書の打ち込みを行った。まず、愛知県清須市の磯貝の自宅に所蔵されている同人雑誌から、単行本未収録の作品をコピーし、画像データにスキャンしたものをOCRソフトでワード文書に変換した。この段階では読み取り不可能な部分や誤変換が多いので、これらを原文に照らし合わせながら補足・修正を行い、「読む会」のブログ (<http://yomukai.blog11.fc2.com/>) にアップしていった。

その後、研究代表者が全文をチェックし、最終年度にホームページ「ジローの文学マダン」 (<http://www.isojiro-yomukai.com>) を業者に依頼して作成した。さらに、磯貝の発表作品目録と「読む会」の月例会の記録、同会の同人雑誌『架橋』の総目次を収録した、報告書『社会参加しての在日朝鮮人文学-磯貝治良とその文学サークルの活動を通して』を刊行した。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下の4つに整理することができる。

(1) 磯貝治良の執筆記録を整理し、彼の文学活動と社会参加の記録の全体像を提示したこと。

磯貝の自宅に残された「執筆・発表・読書記録」ノートは、1冊目が1955年から1980年まで、2冊目が1981年から1996年まで、1997年から現在まで、となっている。ノートの頁には左から発表、執筆、読書の記録が手書きの細かい文字で書き込まれている。本研究では、この内、発表の記録だけを整理した。

その結果、1957年から2012年3月までの55年間に、小説101篇、ルポ35篇、書評158篇、エッセイ185篇、台本8篇、詩2篇、その他（短文、報告、インタビュー、座談会等）349篇、計985篇の作品を発表し、講演も66回行っていることがわかった。

また、発表作品の一覧から、磯貝が参加した市民運動についても輪郭が明らかになり、文学による社会参加（アンガージュマン）を目指し、それを実践してきた磯貝の活動の全体像が浮かび上がってきた。

磯貝の文学活動は、海外の実存主義文学や日本の戦後文学の影響を強く受けていた初期の作品群から、1970年代末以降、在日朝鮮人が主要人物として登場する作品群を発表していくようになる。そのような展開を可能にしたのが、彼の在日朝鮮人文学への深い傾斜であり、在日朝鮮人の実存に真摯に向き合う姿勢であったといえる。

(2) 今日では入手・閲覧が難しい、同人雑誌に収録された磯貝の作品の多くを電子化して公開したこと。これにより、1960年代初めから1970年代後半「読む会」を立ち上げるまでに磯貝が発表した初期の作品を多くの人が読むことができるようになった。

本研究により公開された磯貝の作品は以下の33篇（小説28篇、評論4篇、ルポ1篇）である。

小説1「奇妙な男」『北斗』第54号（1959）、小説2「あんちゃんぼっぼ」『北斗』第58号（1960）、小説3「かくて驟馬ら天に昇る」『北斗』第61号（1960）、小説4「道」『北斗』第63号（1961）、小説5「Kへの手記」『北斗』第65号（1961）、小説6「火と灰の対話」『北斗』第71号（1961）、小説7「王国へ」『北斗』第82号（1962）、小説8「今日零に向かって起つ」『今日零に向かって起つ 磯貝治良作品集』（私家版）（1963）、小説9「見えない影を掴め」『北斗』第90号（1963）、評論1「現代文学はいかにして可能か」『北斗』第97号（1964）、小説10「艦隊が攻めてくる」『北斗』108号（1965）、小説11「石」『小説家』復刊第1号（1965）、小説12「犯行の論理」『東海文学』第6号（1966）、小説13「拷問」『小説家』第2号（1966）、小説14「悔いの証」『北斗』115号（1966）、評論2「ドストエフスキーノート」（1966）、小説15「民話」『東海文学』第29号（1967）、小説16「ナンセンス・プロダクション始末記」『東海文学』第30号

(1967)、小説 17「迷彩の陰画」『東海文学』第 33 号 (1968)、小説 18「八箇孕石 (はっかはらみいし) にて」『東海文学』第 35 号 (1968)、小説 19「街」『新日本文学』1970 年 6 月号 (1970)、小説 20「駱駝の死」『東海文学』第 44 号 (1971)、小説 21「面を脱ぐ」『東海文学』第 46 号 (1972)、小説 22「団欒」『東海文学』第 49 号 (1973)、ルポ 1「死んだ故郷・衣浦湾」『新日本文学』1973 年 10 月号 (1973)、小説 23「文字のない標札」『東海文学』第 58 号 (1974)、小説 24「夢を刈る」『東海文学』第 54 号 (1974)、小説 25「銃声のほうへ」『東海文学』第 56 号 (1975)、小説 26「遁走のすえ」『東海文学』第 58 号 (1975)、評論 3「求心力としての部落—「炎の場所の構造」『新日本文学』1977 年 8 月号 (1977)、小説 27「時を跨いで」『幻野』第 16 号 (1979)、小説 28「死霊の帰みち」『夜の太鼓』第 4 号 (1979)、評論 4「空想のゲリラはどこへ行く?」『夜の太鼓』第 8 号 (1981)。

(3)「読む会」の同人誌『架橋』のバックナンバーを創刊号 (1980)～第 26 号 (2006)、設立 30 周年を記念して出された別冊 (2008)の全文を公開したこと。

磯貝は『架橋』第 5 号 (1984)以降、毎月小説を発表しているため、上記の 28 篇の小説に加え、以下の 22 篇がホームページから閲覧可能になった。

「梁のゆくえ」第 5 号 (1984)、「イルボネ チャンピョク」第 6 号 (1985)、「<はん>の火」第 7 号 (1986)、「聖子の場合」第 8 号 (1987)、「羽山先生と仲間たち」第 9 号 (1989)、「羽山先生が哭く」第 10 号 (1990)、「羽山先生が怒る」第 11 号 (1991)、「木槿」第 12 号 (1992)、「羽山先生が笑う」第 13 号 (1993)、「道のむこう」第 14 号 (1994)、「夢のこちら」第 15 号 (1995)、「漁港の町にて」第 16 号 (1996)、「友人の領分」第 17 号 (1997)、「青の季節」第 18 号 (1998)、「檻と草原」第 19 号 (1999)、「すゑの話」第 20 号 (2000)、「水について」第 21 号 (2001)、「シジフォスの夢」第 22 号 (2002)、「革命異聞二〇一五」第 23 号 (2003)、「路上の詩人」第 24 号 (2005)、「弾のゆくえ」第 25 号 (2005)、「自画像へ」第 26 号 (2006)。

今後、この時期の作品を分析することで、磯貝の在日朝鮮人の描き方やその深化の過程を跡づけることができるのではないかと考える。

(4)韓国の学会での講演と論文発表によって、在日朝鮮人文学への関心が高まりつつある韓国の研究者たちに、磯貝の文学作品への関心を喚起したこと。

近年、韓国ではディアスポラ文学の研究が盛んになり、その影響を受けて、在日朝鮮人文学が注目を集めるようになった。しかし、

在日朝鮮人文学の作品はほとんどが日本語で書かれてれているため、これまでは日本文学の研究者が主な担い手となってきた。2000 年代後半から、在日朝鮮人文学を扱った論文集が次々と刊行され、磯貝の評論も韓国語に翻訳されている。

しかし、それらの研究成果の多くは紹介の域を出るものではなく、しばしば在日朝鮮人社会の実情や戦後の日本社会に対する理解不足による誤解も散見される。そして、本研究代表者がもっとも危惧するのは、韓国における在日朝鮮人文学の研究が韓国文学のグローバル化というナショナリズムに裏打ちされた論理に回収されはしないかという点である。

磯貝は、在日朝鮮人の実存をディアスポラという側面ばかりでなく、日本社会と切っても切り離せない、「根生い」の存在として捉えている。その意味で、磯貝の作品や評論は、韓国における在日朝鮮人文学の研究を大いに深化させる可能性を持っている。更なる翻訳や紹介に努めたい。

なお、残された課題としては、最終年度に予定していたシンポジウムが開催できなかったこと、また大学生時代の習作をはじめ多くの作品の打ち込みができなかったことがあげられる。

シンポジウムについては、平成 24 年度中に開催予定であり、その記録を残し、公表することで次なる研究につなげたい。また、今回取り残した多くの作品についても、地道に作業を続け、ホームページ上に公開していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

①浮葉正親、<在日文学>との出会い—磯貝治良の<在日>文学論とその文学、韓日語文論集、査読有、第 14 号、2010、145-168

〔学会発表〕(計 1 件)

①浮葉正親、<在日文学>との出会い—磯貝治良から学んだこと、韓日語文学会学術発表大会、2009 年 9 月 5 日、釜山外国語大学校 (韓国)

〔図書〕(計 1 件)

① 浮葉正親、名古屋大学、社会参加としての在日朝鮮人文学—磯貝治良とその文学サークルの活動を通して、2012、100

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

①<http://www.isojiro-yomukai.com>（「ジローの文学マダン」）

②『磯貝治良作品集 1 ver.1』（CD）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浮葉 正親 (UKIBA MASACHIKA)

名古屋大学・留学生センター・准教授

研究者番号：40252291

(2) 研究分担者なし

()

研究者番号：

(3) 連携研究者なし

()

研究者番号：